ゆめここ通信

２０２２年２月　第９号

地域支援センター
「ゆめここ」

地域支援センター「ゆめここ」では、以下のような『相談・研修支援のあり方』をもとに相談支援や研修支援に取り組んでいます。今年度の実施件数、具体的な支援の内容について整理しましたのでご確認ください。

地域支援センター「ゆめここ」　相談・研修支援のあり方

目　的

幼稚園、小・中学校、高等学校、市町村教育委員会等のニーズを踏まえた相談・研修支援を実施し、**各学校等における教職員の専門性の向上**を図り、**各学校における指導支援の充実及び校内の支援体制の整備**を推進する。

「切れ目のない支援体制整備事業実施要項」より

幼稚園等、小・中学校、高等学校　等 → 支援を依頼 → 県中教育事務所 市町村教育委員会 → 支援を要請 → たむら支援学校

特別支援教育が より充実するような支援

相談・研修支援の４つの視点

子どもの学びへの対応
・教師、級友、教材との関係性　・教室環境等
・授業のユニバーサルデザインの視点

☆自立活動の視点を踏まえ、『子どもの困難さへの対応』をしていく中で、『子どもの学び』『組織としての対応』『保護者との連携』について支援の内容を深めていく。

学校（園）組織としての対応
・複数で多面的に子どもをみる
・チーム体制でかかわることのよさ

子どもの困難さへの対応
・自立活動の視点を踏まえ、困難さへ対応

保護者との連携
・子どもの成長を共有
・支援の共有

相談支援の実際（授業参観を通して）

子どもの実態 → 背景要因 → 支援策

子どもの困難さを どう見るか

自立活動の視点

指導方法・教材のアイディア提案
校内の支援体制づくり
保護者との連携に向けて

『相談・研修支援の４つの視点』をもとに、　○持続可能な支援　○すぐに始められる支援　○自校化できる支援体制の考え方　を提供していくことで、各学校が無理なく、教員の専門性の向上と指導支援の充実及び校内体制を構築できるように支援していく。

今年度の出かける支援（相談・研修支援）の内容と件数

今年度は、相談支援４件、研修支援２件で、合計６件の出かける支援を実施しました。詳細は以下の通りです。

No.	学校種	学級	学年等	人数	主訴
1	こども園	通常の学級	年中	2	・気になる園児の支援について
			年長	4	・個別の教育支援計画の作成について
2	小・中学校	特別支援学級	研修支援	100	・ライフステージに応じた指導・支援
3	小学校	知的障がい特別支援学級	２年生	1	・本児及び学級にとってのよりよい教育環境づくりについて
4	幼稚園	通常の学級	年長	1	・園児の特性に応じた支援のあり方について
5	高等学校	通常の学級	研修支援	25	・高等学校における特別支援教育について考える
6	小学校	知的障がい特別支援学級	４年生	1	・性的な関心が高まっている児童に対する指導のあり方について

出かける支援（研修支援）の具体例

研修支援「高等学校での特別支援教育について考える」より一部抜粋

はじめに、発達障がいの分類や学習指導要領に明記されている高等学校における特別支援教育について説明をしました。その後、下記のように、具体的な困難さに対する支援策の説明や演習等を行い、特別支援教育について考える機会としました。

事例1 「板書スピードについていけない」

何に困難さがあるのかを探る（生徒の立場になって）

- **記憶の保持**に難しさがあり何度も黒板を見なければならない
- 「聞く」「書く」の**同時処理**が苦手である
- 黒板とノートの**視線の往復運動**が苦手でどこまで書いたか分からなくなる

支援策

- ○ 座席の工夫（黒板に近い場所に）
- ○「視線の往復動作の苦手さ」への対応
  - ・板書内容をプリントで用意する（板書計画のコピー等）
  - ・板書内容を撮って 手元に置いて書き写させる
  - ・板書内容を撮って 授業後に書き写させる

できる方法に変える

「板書にスピードについていけない生徒」について、記憶の保持や視線の往復動作等に困難さが考えられることを確認し、座席の工夫や板書内容を手元で書くなどの支援策を提示した。

事例2 「期限までに課題を提出できない」

何に困難さがあるのかを探る（生徒の立場になって）

- ・様々な**刺激**（人、出来事）に気を取られやすい
- ・物事の**優先順位**を決められない
- ・**中~長期的な計画**を立てて遂行することが苦手である

支援策

自分で決めさせるのもポイント

- ○ 取り組めそうな場所や時間を具体的に決めさせる
  - ・放課後に教室で取り組む　等
- ○ 数回に分けて提出させる
- ○ 付箋等を使って管理させる（提出日を）

将来の職業生活で実践できるように

「期限までに課題を提出できない生徒」について、優先順位を決めること、中・長期的な計画を立てることに困難さが考えられることを確認し、数回に分けて提出する、付箋を使って提出日を管理するなど支援策を提示した。

事例3 「相手を傷つける言動でトラブルになる」

何に困難さがあるのかを探る（生徒の立場になって）

- ・どんな言葉が相手を傷つけるか分からない
- ・その場の感情を抑えられない（**衝動的**）
- ・他者の**感情の読み取り**が難しい
- ・「**暗黙の了解**」が理解できない

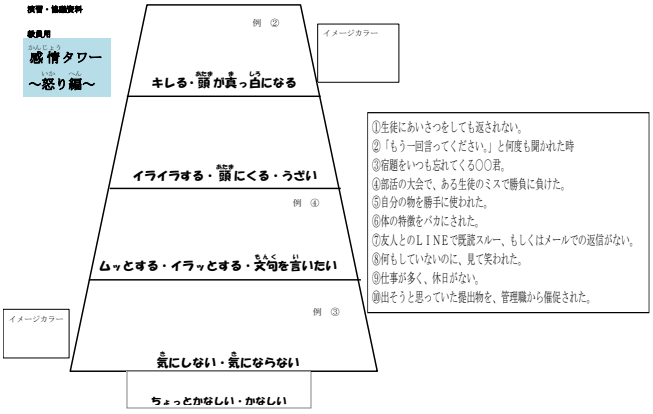
視覚的に伝えると効果的

支援策

- ○ 発した言葉が引き起こす結果を具体的に伝える。
- ○ トラブル後に、状況を整理し気づきを促す。
  （トラブルの状況、自分と相手の気持ち、適切な対応とは　等）
- ○ 感情が高ぶった時のコントロール方法を一緒に考える
- ○ 活動前にルールを明確に示す
  （禁止行動だけでなく代替行動も提示する）

「相手を傷つける言動でトラブルになる生徒」について、感情の読み取りや感情を抑えることの困難さが考えられることを確認し、発した言葉の結果を具体的に伝える、感情をコントロールする方法を一緒に考えるなどの支援策を提示した。

演習：「感情のタワー」



『福島県特別支援教育センター　コーディネートハンドブック第Ⅱ章』　より

研修に参加している先生方に、①～⑩の具体例を自分の感情に合わせて「感情のタワー」に記入し、感情のレベルを確認した。その後、周りの先生方と共有し、自分と他人とを比較し、人によって感じ方が違うこと、価値観は多様であることを確認し、このことは生徒も同様であり、生徒理解や生徒への関わり方について再確認することができた。

研修支援では、対象の子どもが何に困難さがあるのかという自立活動の視点から、子どもの実態や背景要因を考え、支援策を提示しています。また、演習をとおして感じたことを整理し、先生方の実感にもとづいて子どもの行動特性や理解につなげていくことを心がけています。